

日本大学
生物資源科学部

校友会会報

2013 第66号

日本大学生物資源科学部60周年記念棟及び新1・2・3号館(仮称)建設の設計

目次

ご挨拶	2
私学の雄めざし支えあおう	2
平成25年度総会・懇親会開催	3
平成24年度校友会決算および 平成25年度校友会会計予算	3
校友だより	4
トピック	6
農学校友会(植物資源科学科)	7
紫友会(生命化学科)	8
角笛会(獣医学科)	9
満喜葉会(動物資源科学科)	10
いもづる会(食品ビジネス学科)	11
あすなろ会(森林資源科学科)	12
桜水会(海洋生物資源科学科)	13
工学会(生物環境工学科)	14
FT会(食品生命学科)	15
拓友会(国際地域開発学科)	16
応用生物科学科校友会(応用生物科学科)...	17
短期大学部湘南校友会 (短期大学部生物資源学科)	18
支部だより	19
校友会役員・事務局名簿	20
校友会事務局からのお知らせ	20



あなたとともに
100万人の仲間とともに

自主創造
日本大学

「ご挨拶」

日本大学生物資源科学部 学部長 河野 英一



日本大学生物資源科学部校友会の皆様にはご健勝にてお過ごしのことと拝察申し上げます。また、皆様には平素に本学部の教育、研究、学生支援等に多大なご援助を戴いておりますことに対し、本学部を代表して心より感謝申し上げる次第でございます。

さて、今日本学部と深刻に関わる問題が出現しております。それは、関税撤廃・自由貿易を目的とし、日本農業に支障を来すと言われる環太平洋経済連携協定(TPP)交渉への「農業は交渉で例外に出来る」ということでのわが国政府の参加であります。

農業が例外として認められずに協定に参加することとなると、食料輸入率80%近くとなり、食料源の極めて多くを外国に依存することとなってしまいます。外国産牛肉などへの日本の安全性基準の緩和化が強まることから、輸入食料の安心・安全性の確保を真に達成していくことができるのでしょうか。異常気象を来している地球上で洪水や早魃が起らないという保証はありません。食料の大量輸出国であ

るアメリカやオーストラリアなどが洪水や早魃の被災で食料不足を来した場合に、自国の人々への分を削ってまでも日本にそれまでの安い価格で食料を提供してくれるのでしょうか。そんなことなどあり得ません。輸出国の事情で食料が入らなくなつてから、慌てて作物を作ろうとしても間に合いません。

農林水産地を拓き、その管理を永続的に良好な状態に保持していくには大変な苦勞が要ります。それは一朝一夕にはできません。この苦勞を基にして糧を得なければならない人々によってメダカ、ドジョウ、ホタル、カエルなどが棲める二次的自然の保全管理がなされています。この二次的自然が、自然に対する人間の働きかけである農林水産業の縮小あるいは放棄による影響で大きな環境の危機を迎えています。二次的自然とは里地里山であり、これまで農林水産業に必要なところとして維持され、原生の自然に対して人間が長期にわたって手を加える中で形成されて、この地域に特有の

多様な生物が育まれてきました。しかし、この地域では、現在経済状況や資源利用の変化、人口減少や高齢化などに伴い、農林水産業の縮小あるいは放棄が継続し、拡大しています。このため、この地域に生息してきた動植物が環境省のレッドデータブックにおける絶滅危惧種として数多く選定されています。食料の自給率を高める政策を進めてこそ、農林水産業に希望が生まれ若者も定着します。TPP交渉参加により、農林水産業が廃れることで豊かな生物多様性の自然環境も守れなくなります。

わが国政府は、先行加盟国が既に取り決めたことを再考させるのは難しいと認識しているのに、それでも参加してしまいました。日米輸出大企業の利益優先、政治資金の獲得等のための政策と言うほかはありません。皆様は如何お考えでしょうか。

私学の雄めざし支えあおう

日本大学生物資源科学部校友会 会長 内田 俊太郎



本年7月13日に開催された学部校友会総会懇親会には、日本大学理事長・校友会会長田中英壽先生、日本大学学長・大塚吉兵衛先生をはじめ多くの来賓・校友の皆様にご出席いただき、厳粛の中にも楽しく明るい宴を開く事ができました事に対し、心より感謝とお礼を申し上げます。

今、日本大学は田中英壽理事長・校友会会長のもと、未来を見据えた大学運営計画(生物資源科学部附属小学校建設、駿河台日本大学病院建設、三軒茶屋新学部建設等)が一步一步着実に進んでいます。私が40年代に学んだ三軒茶屋の農獣医学部跡地には、日大15番目の新学部として平成25年4月1日から「人間総合科学部(仮称)」がスタートすることが決定しています。そこでは健康・危機

管理・子供未来・スポーツ等をキーワードにした教育の場になります。未来に輝く夢のある学部になることは我々にとって感慨深いものがあります。

私は、教育し社会に送り出してくれた母校日本大学に対し、今まで感謝と貢献をした事があるだろうか、と考える時があります。大学は社会に貢献できる人材教育がその使命です。その使命を社会の発展のために努力していく事が母校に対する感謝なのではないかと思ひます。

学部校友会は活動の大部分を本部校友会から支給される還付金によって運営され、学部・学生(準会員)への支援活動を行っています。その支援活動の有効活用が母校への間接的な感謝と貢献になるのではないかと考えています。

さらに私たちは還付金以外に運営資金を確保する方法を持っています。それは日本大学校友会正会員への加入です。正会費の30%は学部校友会に還付され、その還付金で学部と校友会、準会員に対しさらなる支援をすることができます。

私達は日本大学を卒業した誇りを持って、母校が私学の雄として発展するよう力を結集して支えていこうではありませんか。そして校友会発展のために皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



平成25年度日本大学生物資源科学部校友会通常総会・懇親会報告



平成25年度の通常総会及び懇親会は、平成25年7月13日（土）開催しました。

通常総会は、日本大学生物資源科学部NUホールAにおいて午後2時から85名の会員に出席をいただき、早川幹事長の開会の辞、司会進行で開始しました。

総会に先立ち、4月18日急逝された紫友会木嶋会長の御霊に対し黙祷を捧げました。

総会は、議長に農学校友会石川会長が就任し、議事録署名人に紫友会野口会員と応用生物科学科校友会近藤会員が満場一致で選出されました。

校友会執行役員の紹介後、議事に入り、最初に、事務局から報告事項として、平成25年度表彰受賞者は、角笛会の藤井晋会員、同じく角笛会の長尾壯七会員の2名の会員に決定した。この後の懇親会の会場で表彰する

と報告がありました。

続いて、総会次第に従い審議が行われました。

平成25年度の議案は次の3案で、審議の結果3案とも賛成多数で承認されました。

（平成25年度議案）

①平成24年度事業報告及び

平成24年度会計決算

②平成25年度事業計画及び

平成25年度会計予算

③分会選出幹事の交代

なお、分会選出幹事の交代では、農学校友会井上弘明会員、紫友会野口章会員、応用生物科学科校友会近藤明宏会員、同今泉隆次郎会員、同明石智義会員の5名の会員が新幹事として承認されました。

審議終了後、石川議長は議長を辞任、早川幹事長が閉会宣言し、平成25年度通常総会は、午後3時24分閉会しました。

懇親会は、同日午後4時から学部内食堂棟において田中日本大学理事長・校友会長、大塚日本大学学長、河野生物資源科学部長を始め、日本大学本部校友会及び他学部校友会の来賓の方々並びに学部教職員及び会員の方々総勢161名のご出席をいただき、早川幹事長の開会の辞、司会進行で開始しました。

校歌斉唱、内田校友会長挨拶、来賓の挨拶、平成25年度表彰式と続き、滝沢新事務局長の乾杯の音頭で懇親会は始まりました。

昨年度に引き続き、各分会毎にテーブル席を設け旧交を温めていただきました。

約2時間の懇親会の時間もあったという間に過ぎ来年の再会を約束し、早川幹事長の閉会の辞で午後6時5分平成25年度懇親会は終了しました。

平成24年度 日本大学生物資源科学部校友会 会計決算

（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

日本大学生物資源科学部校友会

（金額単位：円）

科 目	24年度予算(A)	24年度決算(B)	差 異(A-B)	摘 要
1. 前年度繰越金	24,798,759	24,798,759	0	現金33,021円、預貯金24,765,738円
2. 会 費 収 入	44,526,000	46,485,000	▲1,959,000	
1) 準会員週入金収入	44,220,000	46,014,000	▲1,794,000	7,669名×6千円 7月31日及び11月30日入金
2) 正会員週入金収入	306,000	471,000	▲165,000	157名×3千円 7月23日入金
3. 寄 附 金 収 入	0	0	0	
4. 祝 金 等 収 入	1,000,000	1,280,000	▲280,000	7月懇親会530千円・祝金590千円、12月懇親会155千円・祝金5千円
5. 雑 収 入	128,610	220,470	▲91,860	預貯金利息4,739円、23年度週入金60千円、分会負担金110千円等
収 入 合 計	70,453,369	72,784,229	▲2,330,860	

科 目	24年度予算(A)	24年度決算(B)	差 異(A-B)	摘 要
1. 分 会 交 付 金	22,821,000	22,482,000	339,000	準会員21,638千円(9月6日)、大学院生844千円(12月13日)
2. 経 常 費	11,760,000	10,796,621	963,379	
1) 人 件 費	3,800,000	3,794,280	5,720	事務局員給与、通勤費及びアルバイト賃金
2) 本 部 分 担 金	470,000	470,000	0	日本大学校友会本部に対する支部会費及び役員会費
3) 事 務 局 運 営 費	1,200,000	1,208,279	▲8,279	コピー機リース料、その他事務消耗品等に係る諸経費
4) 通 信 費	2,500,000	2,349,685	150,315	切手・葉書代、都道府県支部等への資料発送費等
5) 会 合 費	1,200,000	637,562	562,438	幹事会、執行役員会、各研究会(5委員会除く)に係る費用等
6) 交 際 費	1,000,000	907,074	92,926	分会、都道府県支部、他学部校友会総会等に係る税金等
7) 旅 費 交 通 費	1,500,000	1,346,291	153,709	出張旅費、運営補助費(5委員会除く)等
8) 支 払 手 数 料	90,000	83,450	6,550	銀行振込手数料、残高証明書発行手数料
3. 事 業 費	21,700,000	14,258,333	7,441,667	
1) 総 会 費	2,000,000	1,666,656	333,344	総会・懇親会開催経費等
2) 広 報 費	2,350,000	2,001,665	348,335	会報印刷、ホームページ管理費用等
3) 総務委員会運営費	100,000	0	100,000	24年度委員会開催せず
4) 財務委員会運営費	100,000	0	100,000	24年度委員会開催せず
5) 企画委員会運営費	100,000	0	100,000	24年度委員会開催せず
6) 広報委員会運営費	100,000	56,618	43,382	委員会、会報編集委員会開催会議及び運営補助費
7) 組織委員会運営費	100,000	0	100,000	24年度委員会開催せず
8) 記念事業補助費	500,000	200,000	300,000	桜水会、あすなろ会創立60周年記念式典開催に係る補助
9) 準 会 員 対 応 費	10,000,000	7,923,933	2,076,067	学部に対する寄附及び振興、スポーツフェスタ等への支援
10) 表 彰 記 念 品 費	100,000	138,126	▲38,126	総会における表彰者に対する記念品等経費
11) スポーツ振興対応費	300,000	318,000	▲18,000	日本大学スポーツ振興関連等費用
12) 箱根駅伝対応費	250,000	191,340	58,660	箱根駅伝予選会及び本選の応援等に係る費用
13) 学部60周年記念基金	2,000,000	0	2,000,000	学部60周年記念事業に係る積立金
14) 学部60周年記念準備費	200,000	0	200,000	学部60周年記念事業検討のための委員会開催費用
15) 東日本大震災対応費	2,000,000	1,279,995	720,005	お花お餅け隊等震災関連支援費用
16) 組織拡充計画費	1,500,000	482,000	1,018,000	藤原啓資賞資金の一部補助(企画・組織委員会の合同事業)
4. 予 備 費	4,000,000	1,279,995	1,018,000	23年度未払費用235千円、預り金882千円の処理
当年度支出合計	60,281,000	1,117,101	2,882,899	
次年度繰越金	10,172,369	24,130,174	▲13,957,805	現金105,138円、預貯金24,025,036円
支 出 合 計	70,453,369	72,784,229	▲2,330,860	

平成25年度 日本大学生物資源科学部校友会 会計予算

（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

日本大学生物資源科学部校友会

（金額単位：円）

科 目	25年度予算(A)	24年度決算(B)	差 異(A-B)	摘 要
1. 前年度繰越金	24,130,174	24,798,759	▲668,585	現金105,138円、預貯金24,025,036円
2. 会 費 収 入	45,132,000	46,485,000	▲1,353,000	
1) 準会員週入金収入	44,772,000	46,014,000	▲1,242,000	7,462名×6千円 ⇒ 5ヵ年平均
2) 正会員週入金収入	360,000	471,000	▲111,000	120名×3千円 ⇒ 5ヵ年平均
3. 寄 附 金 収 入	0	0	0	
4. 祝 金 等 収 入	1,100,000	1,280,000	▲180,000	総会・懇親会の会費及び祝金その他 ⇒ 5ヵ年平均
5. 雑 収 入	78,000	220,470	▲142,470	預金利息等 ⇒ 5ヵ年平均
収 入 合 計	70,440,174	72,784,229	▲1,675,470	

科 目	25年度予算(A)	24年度決算(B)	差 異(A-B)	摘 要
1. 分 会 交 付 金	22,386,000	22,482,000	▲96,000	初回準会員週入金収入×1/2
2. 経 常 費	12,060,000	10,796,621	1,263,379	
1) 人 件 費	4,300,000	3,794,280	505,720	事務局勤務者に係る給与、通勤費及びアルバイト賃金
2) 本 部 分 担 金	470,000	470,000	0	日本大学校友会本部に対する支部会費及び役員会費
3) 事 務 局 運 営 費	1,200,000	1,208,279	▲8,279	コピー機リース料、その他事務消耗品等に係る諸経費
4) 通 信 費	2,500,000	2,349,685	150,315	切手・葉書代、都道府県支部等への資料発送費等
5) 会 合 費	1,000,000	637,562	362,438	幹事会、執行役員会、各研究会(5委員会除く)に係る費用等
6) 交 際 費	1,200,000	907,074	292,926	分会、都道府県支部、他学部校友会総会等に係る税金等
7) 旅 費 交 通 費	1,300,000	1,346,291	▲46,291	出張旅費、運営補助費(5委員会除く)等
8) 支 払 手 数 料	90,000	83,450	6,550	銀行振込手数料、残高証明書発行手数料⇒5ヵ年平均
3. 事 業 費	20,000,000	14,258,333	5,741,667	
1) 総 会 費	2,000,000	1,666,656	333,344	総会・懇親会開催経費等
2) 広 報 費	3,350,000	2,001,665	1,348,335	会報印刷、ホームページ管理費用等
3) 総務委員会運営費	70,000	0	70,000	委員会開催経費及び運営補助費
4) 財務委員会運営費	70,000	0	70,000	委員会開催経費及び運営補助費
5) 企画委員会運営費	70,000	0	70,000	委員会開催経費及び運営補助費
6) 広報委員会運営費	100,000	56,618	43,382	委員会、会報編集委員会開催会議及び運営補助費
7) 組織委員会運営費	70,000	0	70,000	委員会開催経費及び運営補助費
8) 記念事業補助費	400,000	200,000	200,000	学科及び支部の記念式典開催に伴う補助
9) 準 会 員 対 応 費	10,000,000	7,923,933	2,076,067	学部に対する寄附及び振興、スポーツフェスタ等への支援
10) 表 彰 記 念 品 費	150,000	138,126	11,874	総会における表彰者に対する記念品等経費
11) スポーツ振興対応費	320,000	318,000	2,000	日本大学スポーツ振興関連等費用
12) 箱根駅伝対応費	300,000	191,340	108,660	箱根駅伝予選会及び本選の応援等に係る費用
13) 学部60周年記念基金	0	0	0	前年度2,000千円計上するも執行せず、25年度は計上せず。
14) 学部60周年記念準備費	0	0	0	前年度2,000千円計上するも執行せず、25年度は計上せず。
15) 東日本大震災対応費	1,600,000	1,279,995	320,005	震災支援に係る関連費用
16) 組織拡充計画費	1,400,000	482,000	918,000	都道府県支部運営資金及び藤原啓資賞資金の一部補助
17) 日本大学創立130周年募金	100,000	0	100,000	平成34年度まで10年間継続
4. 予 備 費	5,900,000	1,117,101	4,782,899	
当年度支出合計	60,246,000	48,654,055	11,591,945	
次年度繰越金	10,194,174	24,130,174		
収 支 差	70,440,174	72,784,229	▲2,344,055	

校 友 だ よ り

観賞魚と歩む人生

水産学科

昭和55年卒業 黒澤 慶司

株式会社エムピージェー

代表取締役



私は、子供の頃から、とにかく生き物が好きで、近所の田圃や小川でザリガニ、サワガニ、ドジョウなど水辺の生き物たちとは、毎日の様にふれあっていました。熱帯魚を飼い始めたのは小学校5年生の時、それからは熱帯魚、金魚、錦鯉、小動物、爬虫類、小鳥、小動物etc.様々な生き物を飼育してきました。そんな魚好きの少年がそのまま育って、将来のことはあまり考えず、魚が好きという理由で水産学科を卒業し、観賞魚・ペットの問屋に就職したのが33年前。17年前に観賞魚専門情報誌「月刊アクアライフ」を出版する株式会社エムピージェー入社し、現在は代表として頑張っています。

弊社は、「月刊アクアライフ」とその別冊および関連書籍の出版・販売と共に水族館などのギフトショップ（おみやげもの店）に商品を卸す事業を行っています。水産を学ぶ者には、観賞魚好きの方も大変多く、アクアライフ読者もいらっしゃるでしょう。また、観賞魚業界や水



アクアライフと近刊雑誌・書籍

族館などにも同窓の先輩や後輩の方々が大変多くご活躍しています。普段、お世話になっている皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。

観賞魚業界は、不況がまだまだ続いていますが、各種イベントは大盛況、水族館も人気、観賞魚などの人気の裾野は広いと実感しています。魚達は人に安らぎを与えてくれます。そんな魚達と関わる仕事ができて大変幸せに思っています。

押し花を日本の文化にし、世界に広げたい

食品生命学科

昭和63年卒業 杉野 宣雄



「押し花を仕事にする」大学4年の時、就職活動を止め人生最大の決断をした。

祖父が植物の分類学者だったことから、父が押し花を美しく乾かす技術を開発した。福岡の田舎に住む父から、「押し花の普及を手伝ってほしい」と言われたのが押し花を始めたきっかけだ。

しばらくは押し花のはがきやフレーム、アクセサリを作り福岡物産展や園芸展などにブースを出し販売をした。「スギノ押し花教室」の生徒募集に力を入れ、愛好者の組織作りを行った。さらに、ブライダルブーケを押し



花にして残す事業も始めた。

しかし、仕事を拡大すると1人でできる仕事の限界を感じ、その結果、手芸出版社とタイアップし「ふしぎな花倶楽部」と言う名の押し花教室の全国展開に至り、現在は27,000名のインストラクターを抱える組織になった。また、押し花だけでなく「レカンフラワー」や「ネイチャープリント」など花に関わるクラフトを開発し、普及をし、がむしゃらに走ってきた。「押し花を芸術に高めること」「OSHIBANAを日本の文化として世界に広げること」が私の目標である。志を高く持つと見え方も変わり仲間も増えてくる。

押し花の普及が私の仕事であるが、活動の範囲は多岐に渡るようになった。開発者、指導者、アーティスト、プロデューサーなどの仕事に自信と余裕ができたことが重要ではあるが、ビジョンを持ち、よい仲間とのよい仕事を心がけ、志を持ち、誰よりも努力することが大事だ。人生にはいくつものチャンスがある。そのチャンスを導くためには志と感性が特に重要だ。もし、人生の道に迷っている人がいたら、自分を信じ、夢を描いてほしい。たかが押し花でも仕事にできるのだから。詳しい情報は、つぎのHPからもご覧になれます。

<http://www.sugino-nobuo.com>

地域に根づいた学芸員として

林学科(現森林資源科学科)

平成10年卒業 武浪 秀子



林学科を卒業し、一旦は神奈川県の大井沢自然博物館に勤務していましたが、学芸員の道が捨てきれず、現在は山形県西川町にある大井沢自然博物館に勤務しています。

次ページへ続く

前ページより続く

ここには在学中に学芸員課程の博物館実習でお世話になり、ここでの勉強が学芸員の道を熱望する基になりました。博物館でもっと勉強したいと、前職を辞めて、町役場へおしかけたところ、相当な変わり者と思われたようで、助役、町長と直接面談することになり、なんとか受け入れていただき、現在に至りました。



大井沢自然博物館

この地域は母の故郷でもあります。月山や朝日連峰の自然に満ちあふれる地域です。大自然の中の小さな博物館の学芸員は、私一人です。展示、説明、管理、収集、調査、普及…働いてみて初めて、雑芸員と呼ばれる意味を、身を持って知りました。地域の方々に教えていただきながら、野外で観察し、東北の自然を学び、自然に触れれば触れるほど、その楽しさと興味は次から次に増していきます。

働いて気付いたのは、女性が自然を楽しむ機会の少なさです。自然観察会などのイベントを企画しても、参加女性は少なく寂しさを感じます。地元の人は自然にあふれすぎて興味が薄い？とよく言われますが、そうではありません。地域の女性は普通に自然にふれあい、その分興味の幅も広いのです。むしろ、地域の女性向けの企画力が不足しているのではと考えました。そこで、仲間とともに平成17年に「女性のための生き物ネットワークエコトーン山形」を立ち上げ、女性のための自然体験と女性による環境保全に取り組み、今では多くの方々と共に活動しています。

そして今私は、自然の恵みとしての“食”に魅せられ、この魅力を大井沢の自然とともに、都市のみなさんに楽しんでもらおうという夢を抱いています。地域の女性ならではの発想で、この実現に挑戦しようと思っています。

未知と無限大の可能性への挑戦 拓植学科(現国際地域開発学科) 平成3年卒業 糟谷 正広



皆様いかがお過ごしでしょうか。今年史上最高の暑さを記録した日本もいよいよ秋となり、風も心地よく感じられる頃でしょう。

私がこの5月に赴任いたしましたアフリカ南部、ザンビアでは、今、乾季の終わりで急激に暑さが増してまいりました。私は現在ザンビアの北部州において、JICA技協プロジェクトの専門家として職務にあたっています。主な業務は、現地に適した稲作栽培体系の開発と現地人若手研究員の指導です。ザンビアにおける稲作は日本であまり知られていませんが、現在のところ、西部にある灌漑地帯と北部地域の河川、湖周辺の氾濫原で行われる稲作が主流です。その生産量は年間4万トン程度で多くありませんが、近年の国内消費の高まりと共にコメの輸入は増大しつつあり、メイズ偏重脱却を掲げるザンビア政府にとって、コメは作物多様化政策の有望作物になっています。本プロジェクトは、稲作初級者ともいえるこの国において、技術開発と人材育成を支援することを目的に、昨年、ザンビアで初めて稲作を中心に扱うJICA技協プロジェクトとして活動を始めました。まさに未知と無限大の可能性への挑戦の開始といえるでしょう。

私がまだ学部生だった頃、先生方にご教授頂きました、この地に存在する内陸小低地集水域(ダンボ)は今もほぼ手つかずのまま残されています。私は今後、このダンボにおける稲作栽培体系を考案するに当たり、現地人篤農家による現場での協力を得ながら、若手研究員と共に



A・ザンビア北部のダンボでの試験研究
現地農民と共に試験研究を実施する。東アフリカ高地帯におけるイネの冷害発生の実態はまだ明確でない。



B・篤農家の協力による試験研究
現地篤農家の協力を得た試験では、土壌、イネの生理・生態に関する理論を説明しながら丁寧に作業を進めて行く。



C・ダンボにおける異なる土壌水分環境での試験
地下水が滲みだすダンボ地形の上位乾燥地から下位湿地において、陸稲ネリカの生育反応を確認する。同時に農民にはこれを実感してもらい、稲作普及につなげる。

検討を重ねて開発を進めようと考えています。栽培技術専門家は今、土木作業に明け暮れる日々です。また、帰国の折には先生方、OB皆様方のお知恵を拝借しにお伺いしたいと思っていますので、宜しくお願い申し上げます。

トピックス

◆日本大学で見つけた夢、そしてミス日本へ◆



鈴木 恵梨佳

植物資源科学科 平成25年卒業

ミス日本になりそして日本大学を卒業して、半年が経ちました。理科か、デザインかで進路を迷った末に、植物について学ぶため日本大学に入学しました。勉強を進める中、デザインと植物が融合した造園学と出会った時、運命を感じこの分野で自分は進んで行きたい、そう思いました。

インスピレーションを養い、感性を育てるために貴重な経験を

求めてミス日本へ挑戦しました。ミス日本候補生が受講する半年のお勉強会の中で、自分が進みたい道があいまいにしか表現出来ないことに気づかされました。幸せなことに、大学の先生が相談にのって下さったり、学友たちが暖かい応援をしてくれました。そして最終審査までに納得のいく表現が出来るまでになりました。それが自信へと繋がって、ベストを尽くせるという幸せに加え、ミス日本グランプリという名誉な



鳥取での植樹イベント知事と一緒に

賞を頂くことが出来ました。

緑化空間のプロデュースの夢を掲げミス日本の責務に当たる中で、鳥取県の都市緑化フェアにて、あなたのその夢ここでやってみませんか？と知事さまから声をかけられ、一区画をプロデュースすることになりました。先生の勧めで見に行っていた都市緑化フェアに自分の作品が展示される、素晴らしい夢の一步目を踏み出す機会を頂きました。

振り返ってみると、日本大学で夢と出会えたことがすべての始まりでした。これからも夢に出会えた時のあの気持ちを忘れずに精一杯前に進んで行きたいと思います。

東日本大震災支援報告-福島の子どもサマーキャンプ



飯館写真



山木屋写真

東電福島第一原発事故で依然、避難生活を強いられている福島県川俣町山木屋と飯館村の子どもと親たちを招待して、第三回目の自然体験・保養キャンプが、今年も富士山麓の富士自然教育センターで開催された。このキャンプは河野学部長

の英断の下、学部と校友会（第一回は日大校友会、第二、三回は学部校友会）の主催によって実現できた。両地域とも20年以上にわたって、教育・研究でお世話になっている町村で、原発被害で各種ストレスを受けている子供や親たちに、「数日でも、青空の下、

自然とふれあい、リフレッシュしてほしい」との思いから実施された。最終日は参加学生たちと「涙の別れ」となり、学生にとっても印象深い体験となった。（文責 山木屋班担当：動物資源、小林信一、飯館村班担当：生物環境、糸長浩司）

農 学 校 友 会

◇植物資源科学科◇

連絡先 造園・緑地学研究室
0466-84-3523 事務局長 葉山 嘉一
E-mail: hayama@brs.nihon-u.ac.jp

平成25年度農学校友会 創立60周年記念祝賀会開催

会員の皆様と学科のご協力と支援により農学校友会も創立60周年を迎えることになりました。それを祝して、平成25年10月12日(土)に総会および記念祝賀会を日本大学桜門会館(校友会館)において盛大に開催しました。その際、60周年事業の一環として校友会の名称を変更し、皆様から寄せられた多くの名称の中から「富嶽会」を新たな校友会の名称にすることにしました。農学校友会同様、富嶽会もよろしくお願ひします。

[期別幹事の選定]

これまで卒業時に選んでいた期別幹事を4年生のうちに各研究室から1名ずつ計8名選ぶことにしました。選ばれた4年生の期別幹事の皆さんには総会や記念式典のお手伝いをお願いするほか、卒業時に校友会から贈られる記念品を選んでいただきます。これまで以上に校友会が在校生に身近な存在になればと思います。

植物資源科学科の近況

[卒業生・新入学生]

本年3月に156名(男子101名、女子55名)の学生(第67期生)が卒業し、社会に巣立って行きました。卒業を記念して校友会からUSBメモリーが卒業生に贈られました。なお、卒業生の中から選ばれる農学校友会会長賞には東日本大震災の被災地の仮設住宅に対する花苗の植え付け活動に積極的に従事し、社会に大きく貢献したことが認められた内田紀嗣さん(花卉園芸学研究室)が受賞しました。

そして、卒業生と入れ替わるように早くも4月には新入学生140名(男子71名、女子69名)を迎え、本年度は1年生から4年生まで総数614名(男子353名、女子261名)の学生が学科に在籍しています。毎年、恒例となっている鶴沼海岸での学科新入生オリエ



オリエンテーションでの地曳綱

ンテーションは4月20日(土)に実施されました。学科新入生オリエンテーションはこの2年間、震災や悪天候のため実施できませんでしたが、今年は3年ぶりに開催することができました。新入生は地曳綱、海岸清掃等を通して、お互いの親睦を深めました。また、5月22日(水)には学部主催のスポーツフェスタが行なわれ、



スポーツフェスタの様子

新入学生は農学校友会から寄贈されたおそろいのTシャツで競技に奮闘しました。

[学科教員の動き]

本年4月1日付けで矢野恵子先生(遺伝育種学研究室)が准教授に昇格されました。同日、肥後昌男助手(作物学研究室)が採用されま



した。肥後先生は日本大学大学院生物資源科学研究科にて博士号を取得後、アメリカのネブラスカ大学リンカーン校で約1年半アメリカの農業や作物生態に関する研究をされていました。また、本年3月末をもって学科事務室の黒澤恵子実習助手が退職され、後任としてこの3月に植物資源科学科(花卉園芸学研究室)を卒業された栗林真珠美実習助

手が採用されました。さらに、学部執行部へは本学科から勝野武彦教授が短期大学部(湘南校舎)次長、野村和成教授が研究担当として学部運営にご



栗林 真珠美
実習助手

尽力されています。また、これに伴い学科主任には井上弘明教授が就任されました。

そして、平成24年度長期海外派遣研究員として本年2月より1年間、井村善之専任講師(植物病理学研究室)がアメリカのケンタッキー大学農学部植物病理学科に留学されています。留学先での先生のご活躍に期待しています。**[平成25年度学科海外研修旅行開催]**

平成25年9月1日～14日まで学科主催の海外研修旅行をタイ・チェンマイ市のメチョー大学農学部にて実施しました。参加学生は15名で、学科ではタイでの海外研修は初めてです。この研修では熱帯の農業事情や環境保全に関する事情を中心に見聞を広め、同時にタイの学生とも親睦を深めました。これまで植物資源科学科では台湾の中興大学との間で10年以上にわたり、相互の海外研修を行ってきましたが、今後はメチョー大学と中興大学の両大学との間で学生の海外研修や先生方の共同研究を進めていく予定です。

事務局より

前年度に引き続き庶務理事には井上弘明教授、事務局長には葉山嘉一准教授、庶務係には藤崎健一郎専任講師をお願いしています。事務局への皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。また、農学校友会ホームページが開設されていますので、ぜひご覧ください。

<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~nogaku/> 会員各位の近況や住所変更および告知したいことなどをお知らせください。

(磯部勝孝)

紫 友 会

◇生命化学科◇

連絡先 植物栄養生理化学研究室
0466-84-3956 事務局長 野口 章
E-mail: noguchi@brs.nihon-u.ac.jp

木嶋弘倫会長逝去 後任に浜野光年氏

永年紫友会の発展にご尽力いただきました木嶋会長が本年4月に逝去されました。訃報に接し惜別の念を禁じ得ません。これまでのご功績に敬意を表しますとともに心からご冥福をお祈りいたします。後任には、浜野光年副会長(昭42卒)が選出されました。

平成24年度

第2回理事会および総会

平成24年11月24日(土)湘南校舎において平成24年度第2回理事会および総会が開催されました。総会では平成24年度事業計画および予算案の審議がなされ承認されました。また、役員人事および会則の変更が行われました。

平成25年度第1回理事会

平成25年7月20日(土)湘南校舎において平成25年度第1回理事会が開催されました。理事会では平成24年度事業報告、決算報告、監査報告等の審議がなされ承認され、平成25年度の事業計画、予算案についても決定されました。また、木嶋会長の後任人事が承認されました。来る平成26年に紫友会創設60周年を迎えるに当たり、正副会長および事務局員による記念事業検討委員会の設置が可決されました。

平成25年度 第20回紫友会奨学生決定



第20回紫友会奨学生への奨学金授与式

第20回紫友会奨学生9名が、同奨学生選考委員会(委員長 春

見隆文 学科主任)により厳正に選考され、下記(敬称略)のように決定いたしました。

- 2年次 久保 百花、吉井 弘明、柴田 直哉
- 3年次 日置 彩花、鷹野 まい、安田 のぞみ
- 4年次 新國 美由、吉岡 沙織、加藤 達

生命化学科・農芸化学科の近況

【在校生】本年3月25日に本学部アリーナで学位伝達式が開催され、平成24年度生命化学科・農芸化学科卒業生155名が社会へ羽ばたきました。同式では、佐野祐果さんに優等賞、本田和奈さんと小田誠さんに学部長賞が授与されました。

本年4月には新入生144名を迎え、当学科には総計611名(男子:304名、女子:307名)の学生が在籍しております。

【学科教員動向】平成25年4月1日付けで、隅田裕明先生(土壌圏化学研究室)が教授に、荻原 淳先生(酵素化学研究室)が准教授に昇格されました。

春見隆文教授(酵素化学研究室)が、「有用機能を有する新規糖質エリスリトールの生産と利用」によって日本農学賞、読売農学賞を受賞されました。

平成23年度長期海外派遣研究員として平成24年2月より一年間、アメリカ ワシントン大学工学部都市工学科に留学されていた中川達功専任講師(微生物機能化学研究室)が帰国され、学科主催にて帰国報告会が行われました。

本年8月7日～8日、本学科において日本農芸化学会関東支部主催で高校生のための実験セミナー「バイオサイエンススクール2013」を開催致しました。多くの高校生が参加し、本学科4年生お



バイオサイエンススクール

よび大学院生と共に楽しく実験を行いました。紫友会会員のご子息ご令嬢が実験セミナーに興味、関心をお持ちでしたら、ぜひ次の機会にご参加くださいますようお願い申し上げます。

紫友会事務局より

本年4月より、野口 章 准教授が事務局長に就任いたしました。皆様のご支援をお願い申し上げます。

会員・準会員への支援する校友会活動の一環として、本年4月にフレッシュマンセミナー(1年次学生)、7月に(株)リクルートによる社会人キャリア力育成アセスメント試験(2年次学生)を行いました。また、10月に紫友会杯争奪研究室対抗ソフトボール大会・卒業研究入室説明会・懇親会(4年次学生)、来年2月に学科所属大学院修了者発表会・



大学院修了者発表会

懇親会、3月に謝恩会(4年次学生)を支援する予定となっております。このように紫友会では、新入生歓迎行事、就職活動支援事業等の活動を支援しております。紫友会の活動状況および学科の体制、教育、研究の状況につきましては、学科ホームページ(<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~cls/>)をご覧ください。

会員の方で住所変更や改姓などがございましたら、お手数ですが事務局までご一報をお願い致します。

(袴田 航)

角 笛 会

◇獣医学科◇

連絡先 獣医病理学研究室
0466-84-3624 事務局長 渋谷 久
E-mail: shibuyah@bri.s.nihon-u.ac.jp

平成25年度角笛会総会 第51回日本大学獣医学会開催

平成25年6月30日(日)、日本大学生物資源科学部10号館において平成25年度角笛会総会及び第51回日本大学獣医学会が開催されました。日本大学獣医学会では巨敏広担当学会長のもと「動物医療における再生医療を考える」と題したシンポジウムと10題の一般講演が行われ、本年度も一般講演と教育講演の時間を大幅に確保したプログラムで内容の充実した学会でした。

角笛会総会では中川秀樹会長より挨拶があり、田村幸生議長(昭和45年卒)の進行で審議が行われました。総会に先立ち、元会長の田中延吉先生をはじめ諸先生方のご訃報に際し、黙祷が行われました。平成24年度の事業活動および会計収支報告があり、承認されました。昨年度、角笛会同期会開催補助が承認されてから7つの同期会補助の申請があり、クラス会員間の活発な交流が報告されました。また平成25年度の事業活動および予算案が審議され、満場一致で承認されました。角笛会の発展に貢献し



平成25年度角笛会功労者の授与式

た功労者として奥山隆一氏(山形県)、長谷川生夫氏(栃木県)、中林大氏(新潟県)、水下健次氏(新潟県)、吉田宗弘氏(岐阜県)の5人に賞状と記念品が授与されました。また日本大学動物病院の獣医臨床技術の向上と臨床獣医学研究の活性化を目的としたANMEC支援基金研究助成は、助教の伊藤大介氏(研究課題:犬の嗅粘膜における幹細胞の同定ならびに神経細胞への分化誘導に



平成25年度角笛会懇親会の様子

関する検討)が授賞しました。総会後、食堂棟3階にて開催された懇親会には学部校友会の内田俊太郎会長をはじめ他学科同僚校友会の来賓、角笛会校友、大学教員そして学部生(準会員)など多数の参加者が集りました。相良徹氏(昭和35年卒)の乾杯の音頭で開幕し、にぎやかに談笑するうちに時間が流れ、盛会裏に終了しました。

実験生物慰霊碑の移設

平成24年11月2日、東京校舎跡地の日本大学新学部「人間総合科学部」開設にともない、実験生物慰霊碑が湘南キャンパスの農



実験生物慰霊碑

場に移設されました。家畜及び実験動物供養祭に先立ち、入魂式が執り行われました。石碑の彫刻には「実験生物慰霊碑 日本大学総長 呉文炳書」「昭和28年度建之 日本大学農獣医学部 學友会」と刻まれており、当時の学部在学生で構成する學友会が中心となり建立したと思われます。三軒茶屋で教育を受けた卒業生には思い出深い石碑です。

角笛会創立80周年 記念樹の表示柱

角笛会創立80周年記念樹の表示柱が朽木のため根元から折れてしまったので、この度新しく作製しました。26年の長きにわたり「くろがねもち」に寄り添っ



創立80周年記念樹と表示柱

てきた表示柱にできるだけ類似したものを再造しました。新しい表示柱は、記念樹が忘れられないよう見守ってくれるでしょう。

第11回日本大学医療系同窓 校友学術講演会の開催

第11回日本大学医療系同窓・校友(医学部同窓会、歯学部同窓会、松戸歯学部同窓会、薬学部校友会、獣医学科校友会・角笛会)学術講演会は平成24年9月29日(土)薬学部主幹で「がんの領域」をテーマにシンポジウム形式で開催されました。今までの講演会は「医療領域における最近の話題」をテーマに広い講演内容でしたが、



日本大学医療系同窓・校友学術講演会の
シンポジウムの様子

第11回からは医療領域の共通テーマを絞り込み、より深い内容の発表になりました。またシンポジウムでは参加者との意見交換が活発に行われました。角笛会からは獣医外科学研究室の浅野和之先生が「動物の癌治療の実際とプレクリニカルリサーチの可能性について」と題して発表しました。本年度の第12回講演会は10月5日(土)医学部の担当で「高齢化について」をテーマに開催されます。角笛会からは総合臨床獣医学研究室の北川勝人先生が「高齢動物における神経疾患の診断治療の現状」と題して発表する予定です。多数のご参加をお待ちしております。

満喜葉会

◇動物資源科学科◇

連絡先 草地学研究室
0466-84-3652 事務局長 丹羽 美次
E-mail: niwa@brs.nihon-u.ac.jp

平成25年度満喜葉会 -活動経過報告-

【役員会の開催】

定例の役員会は、本年5月22日(水)午後4時より、博物館2階第1会議室で開催されました。役員会は山本捷会長の挨拶から始まり、平成24年度事業・決算報告が事務局よりなされ承認されました。また、監事より会計監査結果についての報告がなされ承認されました。次に平成25年度の事業計画・予算案が事務局より提案され承認されました。

【スポーツフェスタ、新入生歓迎会の開催】

上記役員会の後、午後4時30分より食堂棟2階において新入生歓迎会が学科・満喜葉会の協賛、学術研究部の協力のもと行われました。

新入生歓迎会と同日に行われた「スポーツフェスタ2013」は、天候にも恵まれ全競技がグラウンドで滞りなく執り行われました。毎年本会からスポーツフェスタ時に着用するTシャツを全新生、教員に進呈していますが、今年も「Navy blue」のTシャツをユニフォームとして着用し健闘した結果、各種目とも上位の成績を獲得し、昨年の最下位から見事に総合優勝を勝ち取りました。

学科の近況

【卒業生および新入生】

本年3月25日、142名が本学科を卒業し新たに満喜葉会正会員の仲間入りをしました。また、本年4月に151名の新入生を迎え、在籍者は4学年合計で619名(7月1日現在)となっています。本

年度の一年生の男女比は、男子50名(32.7%)、女子103名(67.3%:過年度学生を含む)となり、現在も学部内で最も在籍女子学生比率が高い学科(在籍者の半数を超えているのは当学科と生命化学科、獣医学科、食品ビジネス学科、食品生命学科の5学科)となっています。

【学科人事について】

本年は、過去に例を見ない人事の異動がありました。

平成12年4月に神戸大学より赴任され、特に当学科科目の実質的基礎となる分野や動物生命科学分野科目を担って戴いていた加野浩一郎准教授、および平成22年4月に加野准教授のもとに採用された沖 嘉尚助手の動物生体機構学研究室所属教員2名が本年4月1日付けで応用生物科学科に異動されました。同研究室は、昭和59年に吉田重雄先生により開設され、約30年に亘り吉田先生から、西田隆雄先生、遠藤克先生、そして加野先生へと引き継がれ、上記根幹科目を重点的に担ってこられました。この様な歴史ある研究室が諸事情により失われたことは、誠に残念でなりません。加野先生は、本年4月1日付けで教授に昇格され、「動物生体機構学研究室」を応用生物科学科で継続して主催されます。加野先生、沖先生の益々のご活躍を心より祈念しております。

本年3月31日付けで、40年以上に亘り学科運営、学生教育に務められてきた泉水直人教授(動物育種学研究室)が退職されました。同先生は学生担当や短大次長も務められ、執行部として学部業務にもご尽力されました。今後のご健康をお祈り致します。泉水教授の後任として、同研究室には、(独)農業・食品産業技術総合研究機構(北海道農業研究

センター上席研究員)から長嶺慶隆先生が教授として着任されました。また、ミルク科学研究室に東北大学大学院で助教を務められていた川井泰先生が准教授として着任され、「微生物学」などを担当されます。両先生の今後のご活躍を祈念致します。

平成19年4月より実習助手として6年間に亘って学科事務等にご尽力戴いた鈴木佳代さんは、本年3月31日付け玉造若菜実習助手で退職されました。後任として、玉造若菜さん(平成25年3月本学科卒業)が実習助手として採用されました。

動物育種学研究室所属の山室裕准教授は、本年4月1日付けで教授に昇格し、加野准教授、沖助手の学科異動に伴い18年間勤めた同研究室を離れ、新たに「動物組織機能学研究室」を開設し、動物生理学、分子生物学などを担当されます。

甲斐 藏教授(動物生殖学研究室)は、本年4月1日付けで伴侶動物学研究室へ異動されました。

本年度の研究室の配置と所属教員(18名)は以下の通りです。

6号館4階:動物育種学(長嶺慶隆教授)、動物組織機能学(山室裕教授)、伴侶動物学(甲斐藏教授、福澤めぐみ助教)、畜産食品科学(宮原晃義教授)、ミルク科学(増田哲也教授、川井 泰准教授)、動物生殖学(園田 豊専任講師)、野生動物学(村田浩一教授、岩佐真宏准教授)

6号館3階:草地学(丹羽美次教授、佐伯真魚准教授)、飼養学(梶川博教授:学科主任、浅野早苗助手)、畜産経営学(小林信一教授)、畜産マーケティング研究室(小泉聖一教授)、学科事務室(須藤千絵実習助手、玉造若菜実習助手)(山室 裕)



長嶺 慶隆 教授



川井 泰 准教授



玉造 若菜 実習助手



スポーツフェスタの様子

いもづる会

◇食品ビジネス学科◇

連絡先 地域環境経済学研究室
0466-84-3412 事務局長 磯田 みゆき
E-mail: miyuki@brs.nihon-u.ac.jp

平成25年度総会

就職活動支援の強化など確認 幹事会・講演会・懇親会を開催

6月1日（土）、平成25年度の幹事会および懇親会が学内で開催されました。幹事会では、平成24年度の活動報告・会計報告と、平成25年度の活動計画・予算案が承認されました。一部で景気回復がいわれるものの、全体としては厳しさが続く就職活動に対する支援対策を強化するため、引き続きOB・OGとの就職懇談会・資格試験対策講座など各種支援を行うことにしました。

幹事会後は、本学科OBである(株)マーケティングフォースジャパン代表取締役・横山秀樹氏から「社会の動きから考える新しい企業の在り方『どう成長するか?』から『どう生き残るか?』へ」と題した記念講演をいただきました。自社で社員研修として行われている「耕作放棄地再生」などの社会貢献活動をはじめ、今後の企業の在り方について、示唆に富む貴重な内容の講演でした。引き続き、本館地下1階のカフェテリアで盛大な懇親会に入り、多数の校友と準会員（学生）との交流の輪が広がりました。

校友の情報を広く共有し、学生との交流促進と学生の就活にも活用するため、いもづる会HPを運用していますが、校友の情報交換をより活性化させるため、HPにおいて「校友のひろば」を設置しております。HPのURLは以下のとおりです。今後、多くの校友の方の情報提供をお願いいたします。食品ビジネス学科HPからもアクセス可能です。

<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~imozuru/index.html>

食品ビジネス学科の近況

143名の新入生を迎えました

【新入生】当学科では、3月に149名の卒業生を送り出すと



スポーツフェスタ2013

もに、本年度は143名の新入生を迎え元気にスタートしました。なお、このうち男子が70名、女子が73名と近年では比較的男子学生の割合が高くなりました。本年度の新入生歓迎会は、①各方面で活躍する上級生による「大学で何を学び、どう活躍してきたか」の講演会、②ゼミ連上級生らの企画によるオリジナル料



新入生歓迎会
(オリジナルメニュー発表)

理コンテスト、③ビンゴ大会などを交えた食事会など、盛大かつ充実したものとなりました。5月22日（水）には、快晴の下、グラウンドにおいて例年どおり「スポーツフェスタ2013」が開催されました。新入生は、新入生研修会での投票により1位になったデザインのお揃いのTシャツを着て、学科一丸となって奮闘し、また団結と熱意のこもった応援を展開しました。残念ながら結果は総合9位でしたが、新入生間の結束力を高め大いに親睦が図られました。7月20日、新入生の鴨下俊也さんが事故のため逝去しました。後日行われた通夜・告別式には多くの同級生がその早すぎる死を悼みました。鴨下さんは高校生の早期か

ら当学科を志望し、意欲的に勉学に励んでいる時のことでした。ここに哀悼の意を表するとともに、彼の遺志を継ぎ、多くの同級生が多方面で活躍することを期待します。

新カリキュラムの始動

【新カリキュラム】本年度以降の入学生を対象に、学科カリキュラムが一部改正されました。これは、学科の基幹的科目と、フードコーディネーター、フードスペシャリストの資格関連科目との整合性のための開講年次変更等を、主たる目的としたものです。これにより、教育効果の一層の向上と、社会に貢献できる人材の育成が期待されます。

【人事】12月に、長年にわたり学科に多大な貢献をされた大賀圭治教授が定年を迎えられました（前年度末まで非常勤講師として在籍）。先生の今後のご活躍を祈念いたします。また3月には、川手督也教授が半年間の韓国研修に出発され、4月には、森静香実習助手が異動となり、若林素子准教授（食品開発学研究室）、大石卓史助教（資源・環境経済学研究室）、巢籠和菜実習助手が着任されました。今後の学科への貢献が期待されています。

（高橋 巖）

あすなる会

◇森林資源科学科◇

連絡先 森林環境保全研究室
0466-84-3674 事務局長 阿部 和時
E-mail: kazuab@brs.nihon-u.ac.jp

創立60周年 記念祝賀会を開催

平成24年11月24日（土）に日本大学校門会館において、あすなる会創立60周年記念祝賀会が開催されました。学部長をはじめ、多くの来賓の皆様にご列席いただき、会員約100名が集う盛況な催しとなりました。関係各位のお力添えにより、盛大に祝うことができました。心よりお礼申し上げます。

本年度は、平成25年度総会が10月26日に開催される予定です。会員の皆様にはお誘い合わせのうえ是非ともご出席いただけますようお願いいたします。

林T復活の支援で 綱引き優勝



森林Tを着て綱引きに優勝

林学科時代後期や森林資源科学科改称当初の卒業生に愛用された**実習用ティーシャツ＝林T**が復活しました。あすなる会はこの復活を支援いたしました。レモンイエローの地に、国内外の主要林業樹種の学名ノートをプリントしたもので、森林資源科学科1年生は、これを着て、スポーツフェスタ(運動会)の綱引きで、他を圧倒して優勝しました。残念ながら他の種目は振るわず、総合優勝には至りませんでしたが、黄色のティーシャツはグラウンドを大いにわかせました。会員のご要望がございましたら、この林Tを実費でお届けいたします。



創立60周年記念祝賀会（平成24年11月24日 於：日本大学校門会館）

学科の研究室構成を改編

森林資源科学科は、新しく4分野の枠組みを設け、それを軸として、これまでの研究室構成を、以下の通りの研究室名称と所属教員に改編しました。

森林圏生物多様性科学分野

森林動物学/岩田隆太郎教授。
森林植物・微生物学/阿部恭久教授・鍛代邦夫専任講師。

森林圏環境システム学分野

森林生態学/丸山温教授・上村真由子准教授。
森林環境保全学/阿部和時教授・瀧澤英紀専任講師・小坂泉助手。

持続可能な森林経営・利用分野

森林経営学/増谷利博准教授・杉浦克明助教・園原和夏助教。
森林利用学/井上公基教授・吉岡拓如准教授。

森林資源利用の工学・バイオテクノロジー分野

木造建築学/堀江亨教授。
木材工学/宮野則彦准教授・倉田洋平助手。
バイオマス資源化学/片山義博教授。

その他

学科事務室/山口春奈実習助手・八神早季実習助手。
演習林/垂水秀樹技手・海老原満技手・後藤一雄技手。

教員の異動

佐藤喜和准教授は平成25年3月に退職され、酪農学園大学へ転出されました。

平成25年4月には、八神早季実習助手が着任されました。

実習あれこれ

あすなる会は森林資源科学科の野外実習に参加する学生に対して様々な形で支援しています。

上は冬期演習林実習で、雪と樹木の観察のため、クロスカントリースキーを履いて水上演習



雪山実習でクロスカントリー体験

林を登る様子ですが、実は七転び八起きで、雪山を自由に活動するための訓練です。下は森林



チェーンソーの使い方体験

資源科学実習でチェーンソーの使い方体験の様子です。

会員の皆様からのお便りを心待ちにしています。会員の動向の記事掲載にご協力くださいませ。

(鍛代邦夫)

桜 水 会

◇海洋生物資源科学科◇

連絡先 魚群行動計測学研究室
0466-84-3688 事務局 小島 隆人
E-mail: kojima.takahito@nihon-u.ac.jp

平成25年度桜水会 総会・懇親会を開催

平成25年6月15日(土)午後2時30分より湘南キャンパス10号館で「平成25年度の総会・代議員会・理事会および10年毎の同窓会」が開催され、平成24年度の事業報告、決算報告、監査報告、平成25年度の事業計画案、予算案などが審議され、全て承認されました。「10年毎の同窓会」は、卒業後2年目(H23年卒、60期)、10年目(H15年卒、52期)、20年目(H5年卒、42期)、30年目(S58年卒、32期)、40年目(S48年卒、22期)ならびに70歳以上の卒業生を対象に行われました。続いて午後4時より食堂棟3階NUBSホールで会員・学科教員に加え、準会員である4年次在学生数十名も参加しての懇親会が盛大に開催されました。

学科・準会員への支援

今年度の前期には、「海洋生物資源科学概論」(1年次必修科目)の中で卒業生の体験談などを参考に将来就いてみたい職業を見出す「職業の研究」の一環として、4月16日に倉形邦弘氏(39期、新江ノ島水族館)、5月14日に長谷川勝治氏(20期、元静岡県立焼津水産高等学校校長)、5月28日に村上彩奈氏(52期、共立製薬(株)先端技術開発センター)と相川健志氏(51期、特定非営利活動法人(NPO法人)Dream eggs ゆめたま)、6月4日に八木野瑛介氏(第58期、(株)ウィングマリタイムサービス)と今泉汐里氏(59期、中島水産(株))、6月11日に小島浩一氏(36期、月島食品工業(株) 研究所)



平成25年度 桜水会 総会

が講演しました。「特別講義」(3年次選択科目)では、本学科海洋生物資源応用コース(JABEE対応コース)の外部評価委員を委嘱されている会員が技術者教育の一環として、6月26日に辻 雅司氏(24期、(株)日刊食料新聞新社)、7月3日に宮下一明氏(38期、(株)東京久栄)、7月10日に市橋 理氏(37期、アジア航測(株))、7月17日に尾崎之紀氏(37期、味の浜藤(株))が講義を行いました。また、1年次の必修科目である「海洋基礎実習」への支援、スポーツフェスタ(学部運動会)の学科Tシャツ作成を支援しました。今年度中には、学科広報用パンフレットの作成、学科受験生対策勉強会への補助、在学生の学会参加費等の補助、卒業時の記念品の贈答、就職活動の支援等をする予定です。

海洋生物資源科学科の近況

【新入生・在学生】本年4月に151名(男子104名、女子47名)の新入生を迎え、現在625名(男子423名、女子202名)の学生が在籍しています。新入生オリエンテーションとして4月30日(火)に新江ノ島水族館見学を行いました。当日は、強風のため当初予定されていた鵜沼海岸での地曳き網が急遽中止となりました。前期の「海洋生物資源科学概論」では各教員が10名程度の新入生を担当して行う少人数制のセミナー形式の授業(フレッシュマン・セミナー)を行いました。



新入生オリエンテーション

【人事および研究室の新設・名称変更】

平成25年4月に糸井史朗先生が准教授に昇格されました。平成25年4月に塚本勝已教授が着任されました。なお、研究室の新設と名称変更に伴い、現在、以下の8研究室3グループ・2室で構成されています。



塚本勝已教授

海洋生物生理学研究室

朝比奈 潔教授・鈴木美和専任講師

増殖環境学研究室

杉田治男教授・糸井史朗准教授

海洋生物機能化学研究室(分子生物学)

森 司教授

海洋生物機能化学研究室(生化学)

内田直行教授(研究所)

海洋生物機能化学研究室(病理学)

間野伸宏専任講師

海洋生物資源利用学研究室

松宮政弘教授(学科主任)

海洋環境学研究室

廣海十朗教授・荒 功一准教授・

小糸智子助手

魚群行動計測学研究室

小島隆人教授・牧口祐也助手

水族生態学研究室

高井則之准教授・中井静子助手

ウナギ学研究室

塚本勝已教授

精密分析機器室

宮内浩二専任講師

学科事務室

福島 翠実習助手・阿部江子実習助手

桜水会事務局より

桜水会々員の皆様近況や同期会等の活動の様子を事務局までお知らせください。桜水会のホームページは<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~osuikai/> からご覧いただけます。同ウェブ上で連絡先等変更の手続きができますのでご利用ください。(荒 功一)

工 学 会

◇生物環境工学科◇

連絡先 環境土木施設工学研究室
0466-84-3828 事務局長 青木 正雄
E-mail: m--aoki@brs.nihon-u.ac.jp

工学会創立50周年記念 式典・祝賀会開催迫る

本年は工学会が昭和38年6月に発足して以来、創立50周年を迎えることになりました。会員も順調に増え、現在では7,000名に迫るまでになり、全国各地で多様な方面において活躍されていることは喜びに耐えません。酒川和男会長を中心とした第17期体制のもと、会の目的である“会員の親睦”と“母校の発展”を実現すべく、これまでに学会や準会員との密接な関係構築に向けた数々の協力・支援に努めてまいりました。半世紀を迎える本年は特別な意味合いとして50周年に当たりますことから、記念の式典並びに祝賀会を下記の通り実施すること致しました。奮ってご出席くださいますよう、心よりお待ちしております。詳細は本会HP (<http://www.bae-kougakukai.org/>) からもご確認できます。

表 50周年記念式典・祝賀会会場・次第

日 時	平成25年11月9日(土)
場 所	ホテル椿山荘東京
総 会	13:30~14:20
記念講演会	14:30~16:00
式典・祝賀会	16:30~19:00

平成24年度

総会・講演会・懇親会報告

平成24年11月24日(土)に24年度の工学会総会・講演会・懇親会を開催いたしました。講演会では、本学科の准教授の笹田勝寛先生をはじめ、学科卒業生の渡邊修士氏(平成6年卒)を講師にお招きいたしました。笹田先生からは、英国でのご遊学での成果を「ピートとウイスキーの国」と題したご講演、また渡邊氏からは、ご自身のお仕事を通じた東日本大震災での復興派遣での体験を「被災地へ愛知県からの農業土木職員派遣につ

いて-派遣先宮城県東部地方振興事務所(石巻地域)」と題してご講演をいただきました。懇親会では、学部執行部の先生方をはじめ校友会の各分会長を迎えて、会員と準会員との交流がなされました。



笹田勝寛准教授による講演の様子



渡邊修士氏による講演の様子



懇親会での様子

学科の動向

本学科はJABEEの地域環境工学プログラム・農業工学関連分野の認定を得ています。本年度から学科主任に就任された、糸長浩司教授を中心とし学科教員一丸となって、“エコ・エンジニア”の育成を目指し、学生教育に取り組んでいく所存です。今後とも引き続き、OB・OGの皆様で技術士・技術士補を取得の方は、学科HPから情報登録のご協力をお願い致します。

【人事新任】

平成25年4月に、佐瀬勘紀教授、串田圭司准教授、山寄高洋助手が就任されました。先生方には、今後、更なるご自身の研究、教

育の発展に加え、学科振興へのお力添えをお願い致します。

【学科の教育・研究体制】

現在、本学科は9研究室+学科事務室の教員20名による教育・研究体制をとっています。校友の皆さまには馴染みの薄い研究室名になっているかもしれませんが、構成教員名をご覧になり、かつてご所属の研究室をご確認ください。

学科HP(<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~bae/>)にも動向や各研究室の活動等を掲載しています。あわせてご参照ください。

表 研究室名称・教員一覧

○水資源環境工学研究室
・石川重雄 教授
・長坂貞郎 准教授
・山寄高洋 助手
○地域環境保全学研究室
・河野英一 教授
・笹田勝寛 准教授
・對馬孝治 助教
○生物生産システム工学研究室
・宮本眞吾 教授
・川越義則 准教授
○環境土木施設工学研究室
・青木正雄 教授
・斉藤丈士 助教
○生物生産流通施設学研究室
・佐瀬勘紀 教授
・都 甲洙 准教授
○建築・地域共生デザイン研究室
・糸長浩司 教授
・栗原伸治 准教授
・藤沢直樹 専任講師
○バイオメカトロニクス研究室
・内ヶ崎万蔵 准教授
○動物生態環境学研究室
・三谷奈保 助教
○地域環境・資源マネジメント研究室
・串田圭司 准教授
○生物環境工学科事務室
・石田さちほ 実習助手
・諏訪部茉莉子 実習助手

【事務局より】

会員の皆さまで、住所変更や改姓がございましたらお手数ですが上記事務局までE-mailまたはお葉書にてご一報ください。

FT会

◇食品生命学科◇

連絡先 食品健康解析学研究室
0466-84-3987 事務局長 千野 誠
E-mail: chino.makoto@nihon-u.ac.jp

FT会活動報告

○FT会理事会および総会の開催

FT会理事会が平成25年4月13日に、FT会総会は平成25年6月8日に本学湘南校舎食品生命学科会議室において開催されました。総会では平成24年度事業報告および会計収支決算が承認されました。さらに、平成25年度事業計画案および会計収支予算に関して承認されました。

○準会員（在学生）への活動

平成25年3月25日に食品科学工学科の最終期が卒業しました。また、第48期学生(4年生)の中からFT会長賞を太田明日香さん、大山知子さんに授与しました。また、新入生へは相模湖で実施されたフレッシュマンセミナーと学部スポーツフェスタで飲食物などの補助をしました。なお、スポーツフェスタの成績は、6位でした。2年生および3

年生には、学外実習の補助を、3年生には、さらに教員との懇親会へ飲食物の補助をしました。4年生へは、研究室対抗球技大会への補助を実施しました。

学科の近況

○研究室の新設

平成25年度から、「食の安全・安心」を一段と高く対応するため、食品分析学研究室が立ち上げられました。食品分析学研究室は松藤先生と千野先生が主催されます。なお、研究室の新設に伴い、本学科は、8研究室で下記のように現在、構成されています。

食品生命機能学研究室

細野 朗 准教授・高橋恭子 専任講師

食品健康解析学研究室

山形 一雄 教授

食品分析学研究室

松藤 寛 准教授・千野 誠 専任講師 (FT会事務局長)

食品資源利用学研究室

竹永章生 教授(学科主任)・鳥居恭好 准教授・成澤直規 助教

食品生命工学研究室

今井正直 教授・陶 慧 専任講師

食品創成科学研究室

小田宗宏 教授・鈴木公一 専任講師・阿部 申 専任講師

食品微生物学研究室

森永 康 教授・古川壮一 准教授

食品衛生学研究室

荻原博和 教授

学科事務室

稲葉由貴 実習助手・光野亜希 実習助手

●訃報

平成25年6月8日に武田明治先生(旧食品衛生化学研究室)が、平成25年8月3日に林 力丸先生(旧食品製造工学研究室)がご逝去されました。武田先生と林先生が学生の教育・研究に励まれ、学科の発展にご尽力されましたことに、感謝するとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

事務局より

会員の方々と、住所変更や改姓などがございましたら、ぜひ事務局までお知らせ下さい。また、新しくFT会のホームページ (<http://ftkai.net/>) から各種変更届を受け付けております。

(阿部 申)



2013 スポーツフェスタ



相模湖フレッシュマンセミナー

拓友会

◇国際地域開発学科◇

連絡先 熱帯資源作物研究室
0466-84-3468 事務局長 倉内 伸幸
E-mail: kurauchi@brs.nihon-u.ac.jp

平成25年度幹事会の報告



平成25年度の総会に代わる幹事会が平成25年6月22日(土)に新宿で開催されました。第1議案「平成24年度活動報告ならびに決算報告」が慎重に審議され承認されました。第2議案「平成25年度事業計画ならびに予算案」が審議されました。特に議論された内容はOBの連携強化と在校生である準会員への貢献でした。拓友会は単年度決算のうち準会員への還付率が69%以上と高い水準を保っており、今後も準会員への一層の支援を満場一致で確認しました。

平成24年度拓友賞授与

平成24年度の拓友賞は、南雲咲子さんが国際地域開発学科より推薦されましたので、平成25年3月22日に実施された卒業パーティーの席上、内田会長より表彰状ならびに副賞が授与されました。第60代卒業生を代表して今後の本会活動に積極的に協力いただくことになりました。

平成25年度 学科海外研修旅行開催

学科主催の海外研修旅行を平成25年8月19日～9月8日まで



タイ・カセサート大学での副学長と
研修学生との質疑



植林実習後のトレッキング
フィリピンで、平成25年8月27日～9月5日までベトナム・ミャンマーで実施しました。引率教員はそれぞれ、増見国弘教授、麻生久美子助教および溝辺哲男准教授、與儀佳南子実習助手でした。両国とも、JICAプロジェクト見学や農村開発体験など学科教育を具体的に経験できる学び多き研修旅行でした。

活躍する拓友

平成5年卒業 塚本 佳子
やさいの樹株式会社代表

塚本氏は、卒業後すぐに青年海外協力隊隊員としてエクアドルに派遣され、帰国後は鳥取大学大学院修士課程を修了し、再度青年海外協力隊としてザンビアに派遣されました。帰国後に(株)グリーンリーフの農業研修を経て、平成20年に静岡県菊川市で(株)やさいの樹を起業しました。冬場はレタスやキャベツ、夏場はトウモロコシやオクラなど露地野菜を約20haで栽培しています。起業5年目にして、社員3名、パート2名、タイ人研修生4名で年商1億円の農業起業家として注目され、昨年は日本経済新聞社の1面で紹介されたほどです。タイ人を日本で育てて帰国後農業で成功させるという、塚本さん流の国際協力を実践されています。

教員の動向

早川准教授が、日本大学短期海外派遣制度で、平成25年7月23日～10月15日までドイツ、アメリカに渡航されました。平成25年4月



加藤 太 助教
1日付で倉内伸幸先生が教授に昇格されました。また、熱帯資源作物研究室に加藤太先生が、国際文化研究室に堤美智先生がそ

れぞれ助教として採用されました。先生方には、今後、更なるご自身の研究・教育の発展に加え、学科へのお力添えをお願いいたします。



堤 美智 助教

在校生の近況

平成25年7月1日現在、1年生156名、2年生145名、3年生175名、4年生152名の合計646名(うち男子433名、女子213名)が在籍しています。海外留学する学生も増えており、そのうちの1名の紹介をいたします。

『ウガンダ国短期協力隊員体験記』
4年生 木塚 真奈美

私は青年海外協力隊短期隊員としてウガンダ国に派遣されました。職種は稲作でした。

ウガンダには、昨年校友会報で



ウガンダ作物資源研究所にて

も紹介された拓友の昭和50年卒業の坪井達史氏が稲作上級アドバイザーとして活躍されています。また、平成16年卒業の松本俊輔氏も稲作技術専門家として赴任しています。両OBが活動している作物資源研究所に私も派遣されました。3月末から7月末までの4ヶ月間でしたが、経験したこと、学んだことはこれからも色々な形で自分の将来に活かしていきたいです。

拓友会事務局より

拓友会ホームページ
<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~takuyu/index.html>
をご覧ください。また、会員各位の近況や同期会などの活動の様子もお知らせ下さい。住所変更もホームページから行えます。

(倉内伸幸)

応用生物科学科校友会

◇応用生物科学科◇

連絡先 生体分子学研究室
0466-84-3353 事務局長 明石 智義
E-mail: akashi.tomoyoshi@nihon-u.ac.jp

学科校友会総会を開催

平成25年3月23日(土)に平成24年度総会を湘南キャンパス3号館333講義室で開催しました。事業報告、決算報告、監査報告、予算案について報告と協議が行われ、了承されました。また役員の交代について協議が行われ、大谷憲司(分会長)、飯塚崇(副分会長)、司馬肇(事務局長)が勇退することになりました。本年度から近藤明宏(分会長、平成13年度卒)、今泉隆次郎(副分会長、平成12年度卒)、明石智義(事務局長)の体制で学科校友会を運営することになりました。よろしくお願い致します。

学科の近況

応用生物科学科の在籍学生数は583名、学年別では1年生128名(男71名、女57名)、2年生135名(男79名、女56名)、3年生151名(男91名、女60名)、4年生169名(男107名、女62名)となっています(平成25年8月1日現在)。

昨年度は123名(男75名、女48名)の学生が卒業し、社会に巣立っていきました。卒業生のご活躍を期待します。

学科教員の動きと研究室体制

動物資源科学科の加野浩一郎先生と沖嘉尚先生が異動され、平成25年4月1日より応用生物科学科の教員のメンバーに加わりました。また上田賢志先生が教授に、苦名充先生が准教授に昇格されました。今後さらなるご自身の研究の発展に加え、学生の教育へのお力添えをお願い致します。

実習助手として学科事務、学生実習にご尽力戴いた石原友美さんが平成25年1月に退職しました。後任として本年度から太田早紀さん(平成24年度、食品生命学科卒)が実習助手として採用されました。

教員の異動に伴い、平成25年4月より研究室の体制が大幅に変更になりました。

核酸・蛋白質科学研究室(A)

細野邦昭 教授
司馬肇 准教授

核酸・蛋白質科学研究室(B)

新井直人 専任講師

生命工学研究室

上田賢志 教授
高野英晃 助教

植物細胞学研究室

綾部真一 教授
内山寛 准教授

動物生体機構学研究室

加野浩一郎 教授
沖嘉尚 助手

細胞機能調節学研究室

花澤重正 教授
舩廣善和 専任講師

生理機能科学研究室

池田和正 准教授
苦名充 准教授

生体分子学研究室

青木俊夫 教授
明石智義 専任講師

分子微生物学研究室

砂入道夫 教授
岩淵範之 専任講師

学科事務局

蝦名佐和子 実習助手
太田早紀 実習助手

協賛活動

平成25年4月24日(水)に、新入生の相互交流や教職員とのコミュニケーションを図る目的で、食堂棟の3階において新入生歓迎会を行いました。学科の教職員と100名以上の新入生が参加しました。皆、楽しく懇談し親睦を深めていました。ボランティアの4年生や大学院生も参加し、講義や学生実験、さらに研究室



新入生歓迎会

の様子などを紹介していました。同じく5月にはスポーツフェスタが開催され、学生、教員ともに統一されたT-シャツを着て競技や応援を行いました。

5月26日(日)と8月3日(土)、4



スポーツフェスタ

日(日)には、学部のオープンキャンパスが開催されました。舩廣専任講師(遺伝的に安全な細胞機能/分化の調節システムの



学科説明会

開発)と沖助手(哺乳動物の再生機構に関する研究)による模擬講義が行われました。4号館では各研究室の展示を行いました。



模擬講義

研究室の展示では、学生、大学院生、教員が研究内容をわかりやすく紹介し、さらに模擬実験等も開催されたいへん好評でした。また核酸・蛋白質科学研究室、生体分子学研究室、生命工学研究室、生理機能科学研究室は研究室の開放を行いました。例年ボランティアの学生には昼食が提供されておらず、本年度からお手伝い戴いた学生に協賛活動として昼食を援助することにしました。

事務局より

学科校友会のホームページを作成しました<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~abs_alumni/>。

事務局では会員の皆様からのご意見、ご要望、ご提案をお待ち致しています。ご一報下さいますようお願い致します。(明石智義)

短期大学部湘南校友会

◇短期大学部生物資源学科◇

連絡先 短期大学部 教養・国語研究室
0466-84-3749 事務局長 蒲原 義明
E-mail: kamohara@brs.nihon-u.ac.jp

平成25年度 総会・懇談会の開催

平成25年6月29日（土）16時よりグランドホテル湘南にて平成25年度短期大学部湘南校友会総会が開催されました。平成24年度業務報告・決算報告、監査報告等の審議後、承認され、平成25年度の事業計画、予算案が決定されました。

【懇談会の開催】



懇談会の様子1

上記総会后、17時より同会場にて懇談会が開催されました。生物資源科学部学部長・河野英一教授、福井祥子会長から挨拶があり、生物資源科学部の各校



懇談会の様子2

友会分会の皆様方にもご参加いただき、終始和やかな雰囲気の中でのパーティとなりました。

学科の近況

【新入生】

本年度は新たに161名（女子：88名、男子：73名）の新入生が入学してきました。現在、二年生と合わせ327名（女子：175名、



スポーツフェスタ

男子：152名）の学生が在籍しています。4月9・10日には軽井沢新入生研修会が開催されました。お天気にも恵まれ、軽井沢



軽井沢研修旅行の様子

の自然の中で新入生の相互交流や教職員、上級生とのコミュニケーションを図る事ができました。また、5月22日にはスポーツフェスタが行われ、結果は、総合順位5位でした。

【卒業生】

平成25年3月25日に150名が無事卒業しました。日本武道館で卒業式、湘南校舎にて卒業式及び学位伝達式が執り行われました。翌日には卒業パーティがヨコハマ グランドインターコンチネンタルホテルにて華やかに行われました。卒業後の進路は、生物資源科学部への編入71名（三年次編入：35名、二年次編入：36名）、他大学への編入19名、専門学校8名、就職13名、その他

はアルバイト・家事・就職活動中等です。他大学・他学部への編入は、信州大学、静岡大学、岐阜大学、岩手大学、三重大学、麻布大学、関東学院大学、東海大学、東京都市大学、日本大学国際関係学部等となりました。就職先については、横浜農業協同組合（JA横浜）、東急スポーツシステム、株式会社不二ビュートイー、株式会社マエザワフーズ、中部フローリング等が挙げられます。

事務局より

湘南校友会のHPが開設されました。

URLは <http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~shonan/> です。または日本大学生物資源科学部校友会のHP『分会・支部一覧』のページよりリンクされています。是非一度ご覧ください。会員の方々に住所変更や改姓がございましたら、ホームページより変更手続きをお願い致します。

（文責 山内綾子）

支部だより

宮城県支部の近況

連絡先

〒981-3131 仙台市泉区七北田字町31
小野 隆事務所内 支部長 小野 隆
TEL.022-372-4637 FAX.022-374-8844
E-mail: ono-takashi@almond.ocn.ne.jp



平成25年9月14日(土)に宮城県支部総会・懇親会を開催致しました。総会・懇親会には県内の支部会員を筆頭に、関村学部校友会副会長、深松校友会宮城県支部長、植松山形県支部長、提携校の前山東北高校教頭のご臨席をいただきました。当日は、食品生命学科の竹永教授(学科主任)、阿部専任講師、成澤助教から「食と健康および新しい食品開発について」をテーマに基調講話を拝聴しました。

今年、支部創立10年を迎え、関村学部校友会副会長より「記念事業補助金」の交付を受けました。



今後も会員相互の融和と親睦、母校の興隆発展、校友との絆を一層深めてまいります。

なお、東日本大震災から2年半経過いたしますが依然厳しい復興途上であり、記念事業として



控えの支部会員に焼酎「自主創造」を送りました。(事務局長 櫻田昇)

山形県支部の近況

連絡先

〒990-2433 山形市鳥居が丘4-55
日本大学山形高等学校 池田 卓郎
TEL.023-641-6631 FAX.023-641-6634
E-mail: t_ikeda@ymgt.hs.nihon-u.ac.jp



平成25年2月23日(土)にかみのやま温泉「にほんの宿 古窯」で、第21回山形県支部総会・懇親会を開催致しました。総会には、県内に幅広くいる会員以外に、学部校友会幹事長 早川治氏、海洋生物資源科学科教授 小島隆人氏、山形高等学校・中学校校長 近藤博七氏、生物資源科学部校友会宮城県支部支部長 小野隆氏、生物資源科学部校友会宮城県支部幹事 小松繁氏、工科系校友会山形県支部支部長 長瀬健一氏、経済学部校友会山形県支部支部長 田中教仁氏、文理学部校友会山形県支部支部長 篠原みゑ子氏にもご臨席いただきました。

総会は植松恒美支部長挨拶の後、来賓各位がご紹介され、その後議長に阿部宏氏(生命化学科昭和54年度卒)を選出し、会務報告、会計報告、収支予算(案)等が全て原案通り可決決定され終了しました。総会終了後、講演会に移り、講師に海洋生物資源科学科教授 小島隆人先生を迎え『漁業技術と魚の感覚』と題した講演をいただきました。また、来賓の校友会幹事長 早川治氏より「校友会の近況について」お話をいただきました。

懇親会では、恒例になっております学科毎の「自己紹介」や、「近況報告」を通して更に親交を深め、絆を深める懇親会を開く事が出来ました。

高知県支部の近況

連絡先

〒780-0084 高知県高知市南御座12-3
高知県支部事務局 前川 卓也
TEL.088-880-0538
E-mail: maekawa@mb.inforyoma.or.jp

第25回高知県支部総会と懇親会を平成25年8月24日(土)に料亭「得月楼」で開催いたしました。



総会には、学部校友会内田俊太郎会長、学部長代理として獣医学科家畜病院院長の津曲茂久教授、茂澤学部校友会顧問、特別会員の食品ビジネス学科高坂元教授の皆様に臨席をいただき、支部会員27名が出席いたしました。

先ず、会議の冒頭物故会員にたいして黙祷を捧げご冥福をお祈りしました。その後、森田支部会長が総会の開会を宣言し、来賓の内田校友会会長より農学校友会創立60周年記念の祝い計画や小学校から大学までの一貫教育計画など校友会の近況のご挨拶と、学部長代理出席の津曲教授から獣医学科の独立構想などについてご挨拶をいただきました。

次に、校友会高知支部の設立から今回の第25回総会まで多大なご尽力とご指導を賜りました高坂食品ビジネス学科元教授と校友会会長として永きにわたりご支援とご協力下さいました茂澤校友会顧問のお二人に25回目の総会開催記念といたしまして高知県産の本榎組板一台を記念品として進呈させていただきました。

続いて、第25回総会開催記念といたしまして高坂元教授に基調講演をいただきました。テーマは「ワインの楽しみ方と健康」についてで、ワインの原料は白ワイン用と赤ワイン用が有ることやワイングラスとボトルの関係、ワインと料理については魚介類には軽めの白ワイン8~10℃に冷やして、肉料理には濃厚な赤ワイン15~18℃を常温として飲む。

結びとして、ワインの特徴と健康について話され、ワインは空気に触れると変質し味が落ち、お酒の中でワインは唯一アルカリ飲料で健康に良いお酒であること。

適量のワインを飲めば栄養のバランスがとれ健康な体で長寿を全うできる等のご講演をいただきました。

次ページへ続く

次に、津曲教授から睡眠にはレム睡眠・ノンレム睡眠が有り、浅い睡眠と深い睡眠が脳の活動に影響し、二つの繰り返しがないと修復機能がなくなる。繁殖・生殖とホルモン関係や特に男性ホルモンは寿命に影響する等のお話をいただきました。

続いて、議長に森田会長を選出し議事に入り、平成24年度の事業報告・収支決算報告が承認され、平成25年度の事業計画と収支予算が承認されました。

総会終了後、茂澤顧問の乾杯の発声で懇親会に入り、高知名物の皿鉢料理を囲み会員相互の親交と絆を深めました。

最後に、農学校友会の岡林氏の音頭で校歌を斉唱し、高坂元教授の締めめの挨拶で来年の再会を願い閉会したことを報告させていただきます。(支部長 森田稔雄)

神奈川県支部の近況

連絡先
〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866
日本大学生物資源科学部神奈川県支部事務局
事務局 長 岩野 秀俊
TEL&FAX 0466-84-3627
E-mail iwano.hidetoshi@nihon-u.ac.jp

平成24年度の支部活動の一環として、平成24年9月29日(土)に



平成25年度総会・懇親会

横浜湾内を巡るクルージングを実施致しました。この新企画は、吉田副会長が所有されている船舶を借り切って、横浜港を吹き渡る爽やかな風を肌で感じながら大いに懇談しようというもので、参加者21名には大変好評でした。平成24年12月7日(金)の役員会では、学部農場の一坪農園の畑で収穫された新鮮なソバ粉を使つての蕎麦打ちと試食会を開催致しました。ソバや春に収穫したジャガイモ、さらにはナス、



一坪農園での作業風景

菜作りも、一坪農園で栽培から収穫までを各会員が協力しながら

ら農作業を楽しんでいます。

次に、これまで秋期に開催していた総会を春期に実施することとする会則の一部改訂などに伴い、平成25年度総会・懇親会は平成25年5月25日(土)横浜駅東口・崎陽軒本店において開催致しました。議事が無事に終了した総会後の懇親会では、ご来賓の茂澤学部校友会顧問、吉田桜水会会長、酒川工学会会長、佐々木湘南桜門会会長代理を始めとして、学部執行部から下渡企画広報担当にもご臨席いただきました。中西五十相談役の乾杯のご発声の後、約40名近い出席者と共に和やかな雰囲気の中で、「自主創造」を酌み交わしながら楽しい時間を過ごしました。

学部校友会神奈川県支部では、世良田支部長を中心に精力的な活動を行っていますが、学部校友会のWEBサイト「分会:支部一覧」に支部活動のHPを掲載していますので、是非ご覧下さい。また、ご意見ご希望などがありましたら、細野広報理事(hosono.hidekazu@gmail.com)までご連絡をお願い致します。

(神奈川県支部事務局 岩野 秀俊)

■校友会からのお知らせ■

- 平成26年度の通常総会及び懇親会の開催について
 - 通常総会
 - 日時 平成26年7月12日(土) 午後2時から
 - 場所 日本大学生物資源科学部 NUホールA
 - 懇親会
 - 日時 平成26年7月12日(土) 午後4時から
 - 場所 日本大学生物資源科学部 食堂棟3階
 なお、時間、場所等は変更することがありますので、予めご了承願います。
- 学部(藤桜)祭について
 平成25年度の学部祭は、藤桜祭実行委員会主催で11月2日(土)から4日(月)までの3日間学部内で開催されます。
 校友会では、休憩の場とし1号館2階に「OB・OGの部屋」を準備いたしますので、お気軽にお立ち寄りください。お待ちしております。
- 生産物販売所について
 生産物販売所をご存じですか。生物資源科学部では、正門守衛室横に生産物販売所を設置して学生の皆さんが端正を込めて生産した野菜、切り花、鉢植花などを販売しております。
- 本会報に関するお問合せは、校友会事務局までお願い致します。
 - 住所: 〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866
 - TEL: 0466-84-3799 FAX: 0466-84-3531
 - E-mail: koyukai@brs.nihon-u.ac.jp

日本大学生物資源科学部校友会

役員・事務局名簿

平成25年10月1日現在

名誉会長 河野 英一	幹事 酒川 和男	環工昭和47年卒
会長 内田俊太郎	鈴木 重則	環工昭和52年卒
副会長 石川 稔矩	青木 正雄	環工昭和46年卒
山本 捷	栢 英彦	食生昭和41年卒
島田圭一郎	千野 誠	食生昭和50年卒
濱本 和敏	小谷田 操	国際昭和52年卒
関村 具由	倉内 伸幸	国際昭和62年卒
幹事 赤木 洋行	近藤 明宏	応生平成13年卒
井上 弘明	今泉 隆次郎	応生平成12年卒
浜野 光年	明石 智義	応生平成5年卒
長谷川 清	福井 祥子	短大昭和62年卒
野口 章	滝沢 章	短大昭和40年卒
中川 秀樹	蒲原 義明	文理昭和53年卒
津曲 茂久	石井 賢治	植物昭和28年卒
鳥海 弘	有賀 豊彦	生化昭和39年卒
小杉 幸彦	長尾 壯七	獣医昭和27年卒
丹羽 美次	茂澤 杲	生化昭和26年卒
横川 屹	遠藤 克	動物昭和41年卒
清水みゆき	村山 進	食生昭和31年卒
宮島 吉夫	赤塚 敏夫	森林昭和40年卒
阿部 和時	鈴木 勝春	短大昭和34年卒
吉田 良之	幹事 長 早川 治	国際昭和47年卒
橋ヶ迫 覚	事務局 長 宮島 吉夫	森林昭和46年卒
新井 健次	事務局 員 熊澤 恵美子	

会報編集委員

農学校友会	磯部 勝孝	いもづる会	高橋 巖	F T 会	阿部 申
紫友会	袴田 航	あすなろ会	鍛代 邦夫	拓友会	倉内 伸幸
角笛会	手島 健次	桜水会	荒功 一	応用生物科学会	明石 智義
満喜葉会	山室 裕	工学会	藤沢 直樹	校友会	山内 綾子
				湘南校友会	

発行所
日本大学生物資源科学部 校友会
印刷所
ベータックプリント 田崎 秀明
〒330-0073 さいたま市浦和区元町2-17-13
TEL.048-679-5556 FAX.048-679-5557
E-mail bphide833@yahoo.co.jp